

<平成 30 年度実績評価>

堺市文化芸術審議会 委員評価中間まとめ

【基本的施策⑤堺市展開催事業】

(1) 基本的施策

基本的施策	⑤文化芸術を支える人材の育成 将来の文化芸術の担い手を育成するため、芸術家、文化芸術団体等の発掘、支援を行います。
評価指標	コーディネート機能の構築（推進計画目標値：制度構築）

(2) 具体的取組

評価対象とする 具体的取組	堺市展開催事業			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く美術作品を公募し、将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の一層の発展を図り、また、優れた美術作品を展示することにより、市民に芸術鑑賞の機会を提供し、市民の文化活動の促進を図ることを目的に昭和 22 年より実施（平成 30 年で第 72 回） ・ 16 歳以上の方であれば堺市内外問わず応募可能の公募展（日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸、写真、書道・てん刻の 6 部門） ・ 平成 29 年度応募数 565 点（うち入賞・入選 336 点） ・ 応募費用 1,000 円 ・ 平成 30 年度予算 6,516 千円 			
具体的取組の達成度 を測る評価指標	具体的取組指標	目標値	実績値	
		H30	H28	H29
	応募点数	700 点	590 点	565 点

<平成 30 年度実績評価>

(3) 報告内容

【「具体的取組に対する評価」に関する意見（指標の妥当性、取組の有効性等について）】

- 指標の妥当性について
 - 応募要項をはじめ、事業の枠組み自体が硬直化しており、今日の社会環境や芸術環境の変化に応えられていない。事業のあり方そのものを再考し、本来あるべき指標としての意味を与え直す必要がある。（弘本委員）
- 取組の有効性について
 - 全体に高齢者の応募が多く、中でも平均年齢が 70 歳を超えている部門などは人材の育成という側面がほとんど見えなくなっており、入賞者により有意義な特典を与えるなど、若い人が応募したくなる工夫をしても良い。（亀岡委員）
 - 取組の有効性を高めるためには、出品数の減少や高齢化への対応、外国人の参加を促す工夫が求められる。高校生（美術部等）や大学生、専門学生等の参加を促すと同時に、今後の社会や芸術表現を担っていく彼らにとって、堺市展がどのようなものであってほしいかといったテーマでオープンな意見交換の場を設けてはどうか。（弘本委員）

【「全体評価」に関する意見（評価指標の妥当性、新しい具体的取組の必要性、各具体的取組の関連性等について）】

- 評価指標の妥当性について
 -
- 新しい具体的取組の必要性について
 -
- 各具体的取組の関連性について
 -

【その他所感】

-